

三人称単数現在形

主語の人称

会話や文章のなかで、発話者や著者との関係で、主語に人称がつきます。その人称には番号が付けられます。例えば、発話者・著書本人が主語であるとき、その“**I (私)**”は、1人称と呼ばれます。その話を聴いている、または読んでいる“**you (あなた)**”を2人称と言います。その他の人や動物・事物は3人称となります。

「その小説は1人称で書かれている」と評される作品には、「私は天涯孤独であった。そんな私は……」という文章が書かれていることでしょう。また「この小説は3人称で描かれている」と解説される作品には、「彼女は天涯孤独であった。そんな彼女は……」と書かれているのです。

人称の区別など知らなくても小説は楽しめますし、日常生活で困ることは、ほぼありません。しかし、英語ではこの区別を知らないと、正しい英文が作れません。主語の人称によって、動詞の形が変化するためです。ただ英語の場合、それほど難しいわけではありません。

人称とその主語に対応する be 動詞

人称表

人称	単数	複数
1	I	we
2	you	you
3	he, she, it Jimmy a cat the student my mother that tree	they Jimmy and Ann cats the students my parents those trees

be 動詞

人称	単数	複数
1	am	are
2	are	are
3	is	are



三人称単数

人称と be 動詞 (is, am, are) の対応については、すでに習いましたね。

左側の表の主語に、右側の表の be 動詞が対応します。

一般動詞の現在形

be 動詞を除いた動詞を一般動詞と呼んでいます。1つの一般動詞の現在形は2種類あります。三人称単数が主語のときの形とそれ以外が主語のときの形です。

三人称単数ではない主語のとき、一般動詞は原形（げんけい）と同じ形です。辞書の見出しに出ている形です。

I play the guitar. 「私はギターを演奏します」



三人称単数現在形

三人称単数とは、私でもなくあなたでもない一人の人、または一匹 [頭・羽] の動物や1つの物、数えない名詞のことです。これらのうちのどれかが主語のとき、動詞の原形に-sまたは-esをくっつけるというのが基本です。4タイプを表にして示します。

一般動詞1

人称	単数	複数
1	play	play
2	play	play
3	plays	play

一般動詞2

人称	単数	複数
1	watch	watch
2	watch	watch
3	watches	watch

一般動詞3

人称	単数	複数
1	study	study
2	study	study
3	studies	study

一般動詞4

人称	単数	複数
1	have	have
2	have	have
3	has	have

1型 多くの動詞は語末に-sを

lives 「住む」「生きる」、drives 「運転する」、knows 「知っている」、gets 「手に入れる」、eats 「食べる」、cleans 「掃除する」、practices 「練習する」、walks 「歩く」、feeds 「食べ物を与える」、listens 「聴く」、says 「言う」、writes 「書く」、likes 「好む」「好きである」、sings 「歌う」、takes 「とる」、sees 「見る」「会う」、looks 「見る」、moves 「移動する」などがあります。

He plays the guitar. 「彼はギターを演奏します」

2型 語末に-es を

正確な表現ではないのですが、-s, -z, -x, -sh, -ch, 子音字+o で終わる動詞には-es をつけます。

passes 「通過する」「合格する」、misses 「~がないのをさみしく思う」、buzzes 「ブンブンなる」「インターネット上で話題となる」、washes 「洗う」、pushes 「押す」、watches 「見る」「観る」、teaches 「教える」、goes 「行く」、does 「する」などがその例です。

主に発音の都合上で、[-Iz イズ]と発音してほしいことを表すためのものです。語末が-o の場合は事情が異なるようです。学校で習うものは、出てきたら覚えてしまいましょう。



My sister **watches** TV every night. 「私の妹は毎晩テレビを見ます」

3型 -子音字+y で終わる単語は y を i に換えて-es をつける

study の y の前の文字 d は子音字です。その場合、y を消して -ies をつけます。

study → studies 「勉強する」、cry → cries 「叫ぶ」「泣く」、try → tries 「やってみる」、carry → carries 「運ぶ」、fly → flies 「飛ぶ」「飛ばす」などがあります。

“母音字+y”で終わる単語は、そのまま-s をつけます

play → plays 「(スポーツを) する」「(楽器を) 演奏する」「遊ぶ」

buy → buys 「買う」

(a, i, u, e, o を母音字として覚えておくと良いでしょう)

Ann **studies** English every day. 「アンは毎日、英語を勉強している」



4型 特殊型

have の三人称単数現在形は、haves とはなりません。has となります。確実に覚えてしまいましょう。

have は [h ə v ハヴ] [h a e v ハヴ]、has は [h ə z ハズ] [h a e z ハズ] という発音になります。



His teacher **has** a lot of books. 「彼の先生はたくさんの本を持っている」

-s, -es の発音

この-s, -es の部分は、基本的に3種類の発音があります。試験にも出題されることがあるので、覚えてしまいましょう。

(1) -z タイプ

[-z ズ] と発音するタイプです。一番多く存在します。

plays, lives, drives, knows, cleans, feeds, listens, sings, sees, moves, goes, studies, cries, tries, carries, buys,

y を i にして e s をつけるタイプもここに含まれています。[Iz] の [I] はもともとあって、es の部分だけ見れば [z] となっています。

語末に-es をつけるタイプのものは、このあとでも紹介します。



(2) -s タイプ

[-s ス] と発音するものがあります。

gets, eats, walks, writes, likes, takes, looks, stops, keeps, helps, laughs, ...

のどを震わせない音を無声音と言いますが、その音で終わる語の後の-s は [-s] の発音になります。-t, -k, -te, -ke, -p, -f, -gh の部分が無声音（無声子音）です。

ただし、gets は [ゲットス] ではなく [ゲッツ]、eats も [イートス] ではなく [イーツ] になります。最後の子音 t と s がくっつくと [トス] ではなく [ts ツ] となります。

write と like, take の語末の-e には発音が割り当てられていないので、音の上では-t, -k で終わっています。



pkt (プクト) の後の s は [ス] と教えている時期もありました。リスニング問題の比率が小さく、紙の上での出題が多かった時期です。ただこの-(e)s の発音の区別は、リスニング問題のメインとしては出しにくいので、現在でも文字で出題されることがあります。

(3) -iz タイプ

こちらは母音の [Iイ] を間に挟んで [Iz イズ] と発音します。

practices, dances, uses, passes, misses, buzzes, washes, pushes, watches, teaches, ...

見てわかる通り、語末に-es が付くタイプの多くが含まれています。

practice, dances は -e で終わっているのもで-s だけつけますが、発音は-ce の部分が [s] なので、この仲間になります。

uses も e の部分に音がないので [s] で原形の発音が終わっています。



(4) 特殊型

have [h ə v ハヴ] [h æ v ハヴ] の三人称単数現在形の has の発音は [h ə z ハズ] [h æ z ハズ] とすでに紹介しました。

say [s e I セイ] の三人称単数現在形の says の発音は [s e I z セイズ] ではなく、[s e z セズ; セッズ] です。



肯定の平叙文

(×) He like music.

(○) He likes music. 「彼は音楽が好きです」

主語が he などのような三人称単数であれば、動詞は三人称単数現在形を使います。三人称複数の場合は、原形と同じ形の現在形になります。

(○) They like music. 「彼ら [彼女たち] は音楽が好きです。」

(×) They likes music.



否定の平叙文（否定文）

(×) She don't play soccer. (×) She don't plays soccer.

(×) She doesn't plays soccer.

(○) She doesn't play soccer. 「彼女はサッカーをしません」

一般動詞を使った文の否定文・疑問文で用いる助動詞 do にも三人称単数現在形の **does** が存在します。

三人称単数が主語のときの一般動詞を使った文の否定文は、**don't** ではなく **doesn't** を利用します。does not と 2 語にしても構いません。その際、動詞は原形 (-s のつかない形) になります。

助動詞を使えば、動詞は原形にします。

主語が三人称単数以外の場合は、もちろん **don't[does not]** を使ってください。

(○) We don't play soccer. 「私たちはサッカーをしません」

(×) We doesn't play soccer.



肯定の疑問文とその応答

(×) Do the dog eat vegetables?

(×) Do the dog eats vegetables?

(×) Does the dog eats vegetables?

(○) **Does** the dog eat vegetables? 「その犬は野菜を食べますか」

主語が三人称単数で動詞が現在るとき、疑問文も **do** ではなく **does** を使います。その際、動詞は原形になります。

例の疑問文に対する代表的な応答は次の通りです。



Yes, it **does**. 「はい、食べます」

No, it **doesn't**. 「いいえ、食べません」

疑問文の主語 **the dog** が **it** になります。犬を家族同然に扱っている人は **he** や **she** にするかもしれませんが、通常 **Does...?** でたずねられれば、**does[doesn't]** で答えます。

No, it does not. と短縮形を使わない答え方も可能です。

Yes, it do. や **No, it don't.** という英文はありません。



疑問詞を使った疑問文

What **does** your mother do after breakfast?

「あなたのお母さんは、朝食後に何をしますか」

She **goes** to her clinic. She is a doctor.

「彼女は自分のクリニックに行きます。彼女は医者です」

疑問詞を使った疑問文では、**疑問詞が文の先頭**に来ます。そのあとで、通常の疑問文の語順になります。

疑問文の主語 **your mother** は、応答文では **she** に代えています。

答えの文の動詞は **goes** になっていますが、この動詞とそれに付随する語句を尋ねたのが、**what** で始まる疑問文です。応答文の動詞が不明の場合、**do what→What...do...?** 「何をする？」という疑問文の形になります。万能動詞の **do** と **what** の組み合わせで質問します。

未完ですが、テストも近いことから、ひとまずお渡しします。